

『子ども読書の日』



遊々こども園

4月15日(土)、劇団「風の子」による『いやだいやだのペンペロペー』が上演されました。身近なものを使って参加できる劇を観て、子どもたちはお話の世界を冒険しました。

「子ども読書の日」を知っていますか？
はじまりはスペインです。4月23日に、バラと本を大切な人にプレゼントするという習慣が世界中に広まり、日本でも子どもたちが本に親しんでくれることを願う日となりました。
遊々こども園と坂祝小学校での取り組みを紹介します。

坂祝小学校

4月20日(木)、朝読書の時間に担任の先生によるよみきかせが行われました。
どんな本を読んでももらえるのかな？先生はどんな風に読まれるのかな？と子どもたちはワクワクしたようです。また読む側の先生にとっても実りある体験になったようです。先生方に感想をインタビューしました。

私が好きな絵本。くりかえし出てくる動物のうんちの特徴が描写しており、子どもたちの反応も上々でした。(藤井先生)
『うんちしたのはだれよ』ヴェルナー ホルツヴァルト/著 偕成社

もともと興味がない世界の話でも、有名な人の話だと集中して聞いてくれました。(渡辺美里先生)
『ヴァイオリニスト20の哲学』千住真理子/著 ヤマハミュージックメディア

時々教室で本を読みますが子どもたちは本が大好きで、いつも真剣に聞いてくれます。今回は年度初めだったので、本に親しめるようなものを選びました。子どもたちが知っている本の題名がたくさん出てきて、「読んだ!」「読んでない!」と興味津々。読んだ後も個人的に「あの本は読んだ」と話してくれる子がいて嬉しく思いました。

(桐山先生)
『本、だ〜いすき!』ジュディ・シエラ/著 新日本出版社

学生時代に関西に住んでいたのので、関西弁のおもしろいこの絵本を選びました。岐阜弁と関西弁のちがいを楽しんでほしいと思いました。絵のイメージが子どもによく伝わるように、読むテンポや、擬音語・擬態語の読み方にもっと工夫ができたのではないかと思います。(久野先生)
『じごくのそうべえ』田島征

この本を読んで以降、帰りの会で「あったかみつけ」に手をあげる子どもが増えました。子どもの意識に変化があったのではと思います。指示をすることが多い毎日の中で、よみきかせによってメッセージが伝わるということを発見することができました。(江口先生)
『ええところ』くすのきしげのり/著 学研教育出版

人種差別があるという事実を子どもたちに知ってほしかったので読みました。なぜ差別をするのか、大いに疑問に思ってくれたようです。私自身、家庭でも毎晩寝る前は子どもによみきかせを続けています。今では6歳の上の子が下の子に読んでいます。抑揚もつけ上手に言葉を使いこなしている姿を見ると嬉しい思いがします。(丹羽先生)

『ローザ』ニッキ ジョヴァンニ/著 光村教育図書

クラスでめだかを飼っているので、子どもたちは身近な生きものの絵本に興味津々でした。大きな写真にじっくりとくれました。(高木先生)
『めだかのぼうけん』渡辺昌和/写真 ポプラ社

自分で読むのが苦手な子どもでも、読んでもらうのなら好きという子の好奇心を感じました。4年生でも、おはなしの情景を想像するのが苦手な子どもがいますが、絵を見せることによって心にとんと入っていく効果があると感じました。(山本先生)
『ふたりはともだち』アーノルド・ローベル/著 文化出版局

『坂祝小学校よみよみ週間』

小学校では年に3回、『よみよみ週間』という行事があります。2週間の期間中、学校中が読書を楽しむ雰囲気になります。今年度最初の『よみよみ週間』は5月に行われました。

『家族de読書』や図書委員が企画した『分類ビンゴ』など、楽しい取り組みがたくさんありました。なかでも担任以外の先生が教室でよみきかせを行う初の試みがあり、普段接することの少ない先生によるよみきかせという貴重な体験に子どもたちは大喜びでした。その後、図書館に『先生方が読んだ本コーナー』が作られると、争奪戦が繰り広げられ、いつも本が無い状態です。今回、よみきかせをされた先生方からの感想を、紹介します。



『本となかよしになる』 坂祝小学校長 丸山隆

1年生の教室に読みきかせに行きました。司書の先生にとっておきの本「はつきよい どーん！」と「うそだあ！」の2冊の絵本を紹介していただき、いざ教室へ。私も事前に読んでみましたが、そのおもしろいこと。本のおもしろさを実感した上で臨んだ私の上機嫌を子どもたちはすくなく察知して聴いてくれました。子どもたちにはこの一年でできるだけ沢山の本を手にとってほしいと願っています。

すぐれた本は洗練された美しい日本語によってつづられています。本を読むということは本の言葉を頭の中で瞬間的に絵(イメージ)に描きそれを連続させていくことです。目に見えないものを想像する力は、絵本を楽しみ、将来自分で本を読むために必要な力です。他者の生き方に思いをはせたり、豊かに表現し伝えたりできる、素敵な「ひと」に育っていくことを願ってやみません。

読書が苦手だった私ですが坂祝小学校に来てから、読書への関心が広がり、少しずつですが毎日本を開く習慣がついてきました。さあ、今日もページを開いて本の世界に引き込まれる時間を楽しみます。今、私は本の中で戦国時代に居て、木下藤吉郎(後の豊臣秀吉)と行動を共にしています。



歌の場面では、子どもたちに歌ってもらったり、どろぼうがっこうの生徒たちが返事をするシーンでは、子どもたちに返事してもらったりと参加型の読みきかせにして、大いに盛り上がりました。最後まで読まずに、子どもたちに借りて読ませる工夫をしました。(末松先生)
『どろぼうがっこう』かこさとし/著 偕成社

アンネの事を知っている子が少なかったようです。しかし真剣に聞いてくれ、差別があったという事実に気が付いてくれました。またアンネにまつわる木が、八百津町や可児市にあることに驚いたようです。(古田先生)
『アンネの木』イレーヌ・コーエン=ジャンカ/作 くもん出版

読んだことがある子が多かったようですが、良い反応を見せてくれました。ラストの場面での子どもたちの顔を見て、このお話の真意を感じてくれたのだなと嬉しく思いました。(常平先生)
『ママがおばけになっちゃった!』のぶみ/著 講談社



イメージしていたのとは違う妖怪の話。子どもたちに相手への見方・考え方を変わると仲良くなれるのかなと感じてほしいと、願いをこめて読みました。(酒向先生)
『舌ながばあさん』武建華/画

まず何を読もうか?というところから始めました。6年生相手ですが、絵に惹かれるものは?とさがしました。絵本の中のぼくのかわりに、子どもの名前を入れて読んだところ、反応大!子どもたちとかけ合いながら楽しんでいる自分がいました。(近藤教頭先生)
『やきざかなののろい』塚本や

キラキラした目で聞いてくれて嬉しく思いました。面白い本には、期待どおりの反応が返ってきたので読み手も楽しく読むことができました。(吉田先生)
『だんごうおです。』平田昌広/著 徳間書店



ブックフェスタ2017に行こう!

日時 8月8日(火)9:30~12:30
場所 中央公民館図書室・ホール・ロビー

劇団「風の子」による上演、図書室探検や押し花のしおり作りなど楽しいイベントが盛りだくさんですよ!



子どもの読書活動実行委員がかわりました!



近藤聡子
ふわふわプリン代表

私は絵本を読むことで、息子との優しい時間をもつことができ幸せでした。絵本にたくさん助けてもらいました。好きな絵本は「じっちゃんのあるくみち」「コロちゃんのクリスマス」です。



瓜生美由紀
図書室担当・事務局

「よみきかせ」で子どもたちからパワーをもらっています。これからも楽しい本を読んでいきたいです。